

胡渭州

張

祐

亭亭たる孤月行舟も照らし

寂寂たる長江万里に流る

郷国は知らず何れの処か是なる

雲山漫漫人をして愁心えしむ

【作者】張 祐(七九二〜八五二年)・晩唐の詩人。清河(山東省)の人。字,承吉。科擧に落第し,晩年は江南を中心に流浪を続け  
たが,のち丹陽曲阿(江蘇省)に隠棲して終った。平易な詩風で詩約 三五〇首が現存するが,五言律詩『金山寺』など,放  
浪中に歴訪した名勝,名寺の題詠が多い。

【語釈】\*胡渭州:樂府題。渭州は現・甘肅省隴西の東南にある地名。 \*亭亭:(樹木などの)高く聳(そび)えたつさま。直立し  
たさま。遠く隔たつているさま。よるべないさま。美しいさま。 \*孤月:ものさびしく見える月。 \*寂寂:ものさびしい  
さま。静かなさま。ひっそりとしたさま。無心のさま。何も考えないさま。 \*雲山:雲のかかった山。

【通釈】高々ともものさびしく見える月が,通る舟を照らしてして。静かなでひっそりとした長江は,遙かに流れていく。故郷は,どち  
らの方がそうなのか分からないが。雲のかかった山が果てしなく続き,(わたしを)切ない思いにさせる。